TREC
project

TREC プロジェクトの継承

富山大学芸術文化学部／地域連携推進機構産学連携部門 併任　矢口　忠憲

一昨年度（H24年度）で文部科学省の補助事業 *注) としては終了したTREC事業であるが、昨年度は更なる展開を図るため本事業で得た方法論の技術移転を目的としたネットワークづくりを始めた。

TREC事業の目的は、職人技として継承されているものの、産業規模としては縮小の一途を辿っている地域の伝統的工芸産業を、地域の生活環境・暮らしへ還元させていく循環の構築を目指したものである。その取組みとして、伝統的技能の伝承方法、人材育成方法の検討、伝統的技能の知的財産化、現代化への検討を行ってきた。一昨年度末の最終報告会で総括した通り、本事業期間内に立ち上げた「高岡地域職人技のブランド化推進協議会」の事務局を高岡市に移管したことで、事業目的のうち本学の地域貢献のかなりの部分が達成されたが、今後更なる活性化を図るためにも、本事業を全国に展開させる（資源化と具体化が急務となる伝統的工芸・産業を有する他の地域へ技術移転する）ことが必要であると考えている。

昨年度は、その展開と連携の手始めとして事業期間内に接点のあった地域のうち、特徴的な取組みを行っている沖縄を訪問し、本事業内容を踏まえた講演会を開催し、大学・地場産業・行政関係者との連携を図った。

＊注）産学官連携戦略展開事業（戦略展開プログラム）（H20-21年度）、大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）（H22-24年度）（代表者：産学連携部門デザインマネジメント・プロデューサー　前田一樹）

1．「職人技の伝承と発展」講演会

日　時：平成26年３月17日（月）14：00～

場　所：沖縄県立芸術大学「首里崎山」キャンパス
デザイン中央棟３F講義室

・第１部／TRECの活動報告

・第２部／事例報告に基づくフリーディスカッション

沖縄県立芸術大学における教育・研究・地域振興などの現状を踏まえ、行政と連携しながら本事業の考え方を継承した沖縄独自の展開が可能かどうか、他の地域を含めた連携による相乗効果の可能性などについてディスカッションを行った。

・プレゼンテーター：富山大学／前田一樹、矢口忠憲

・参加者：沖縄県立芸術大学／笹原浩造 准教授、学部学生８名

・関係者：沖縄県工芸振興センター／大城直也、内閣府沖縄総合事務局商務通商課／大城弘文

2．伝統的産業に関する調査

日　時：平成26年３月16日（日）

宮古島市体験工芸村（織物工房）／武富末子（宮古織物事業協同組合理事）　ヒアリング

日　時：平成26年３月17日（月）

宮古伝統工芸品研究センター／上原則子（宮古織物事業協同組合専務理事）　ヒアリング

宮古上布の大きな特徴としては、全て手積みの糸でなければならないこと、柄が小さな十字絣で構成されてい

ること、仕上げとして「砧打ち」という工程（４kgほどの木槌で布面をまんべんなく叩いて繊維をやわらかくすると同時に光沢を出す）を施すことなどが挙げられる。また、その最高の技術を継承するために、下記の様にいくつかの規定を設けることで品質を守っている。

【宮古上布】：十字絣（経・緯糸共に手積み芋麻を使用／染色は藍染／絣は幾締め又は手活りによる十字絣／14算以上／手織りの平織り）、**草木染め**（経・緯糸共に手積み芋麻を使用／染色は藍又は天然染料／絣を入れる場合は幾締め又は手活りとする／12算以上／長さは12m60cm以上／手織りの平織り）

【宮古織物】：宮古芋麻織（経糸に麻・ラミー、緯糸に手積み芋麻を使用／染色は科学染料又は天然染料／12算以上／長さは13m以上／高機による手織りの平織り）、**宮古麻織**（経糸に麻・ラミー、緯糸に手積み芋麻を使用／染色は科学染料又は天然染料／12算以上／長さは13m以上／高機による手織りの平織り）、**宮古織**（経糸に綿、緯糸に麻を使用／染色は科学染料又は天然染料／12算以上／長さは13m以上／高機による手織りの平織り）

ここ宮古島でも伝統工芸の技術を守るため、戦争や業績不振で一時解散していた組合組織を立ち上げ、昭和42年には更に組織を見直し、改革案を推進し始めた。一つは、平成12年に新規格（上記規定を満たせば草木染めや太い芋麻糸を使った帯地なども「宮古上布」に加える。）を設け、組合において厳密な検査を実施した後、検査証を添付すること。もう一つは、組合と行政が一体となって分業化されているそれぞれの工程別の後継者育成事業を推進することである。特に糸づくりに関して重点的に若手従業者の育成に力を入れている。

今後の課題は、若手従業者の定着化と既存従業者生活の安定のためにも、新商品開発に加え販路拡大を目指すことにあると言う。その一例として、先に訪問した体験工芸村では、今まで捨てられていた背の低い芋麻を、紙漉きの材料として活用する研究が進められ、いずれは「ちょま紙」としての商品化を目指している。

３．今後の展開

１）昨年度着手し始めた連携地域の沖縄地方においては、引き続き沖縄県立芸術大学、伝統産業関連組織（県工芸振興センター／内閣府沖縄総合事務局など）とも連動し、既存する地場産業の伝統的技術の調査・研究を通して、その中から現代化の可能性を強く有するものを選択し、様々な視点による新価値創出を模索する。

２）同時に、更なる連携地域の開拓を押し進める。（TREC事業に関する講演：活動報告・ディスカッションを通して連携先を発掘する。）

全国に点在する地域特有の伝統技術を、TRECの考え方に基づいて現代化を模索する実験（ワークショップ）は、その方法論を全国に展開することはもとより、その方法論を確立させ、より進化させることができる。合わせて、今後継続的に全国展開を押し進めネットワークを広げることにより、各地域間の応用発展を図るといった相乗効果も期待できる。

また、上記の実験（ワークショップ）で得た実際的ノウハウは、教育プログラムにも還元され、より学部横断的・実践的授業の実施が可能となる。内容的には、様々な専門分野で共通に必要とされる本質的且つ融合的な部分を担っており、現在社会が抱えている複雑な問題の解決や新たな提案を可能にするものであると考える。